

40年超運転 常態化も

美浜原発再稼働 専門家「廃炉を」

関西電力の美浜原発3号機（福井県美浜町）が23日、国内で初めて運転開始から40年を超えて再稼働を始めたことで、北海道電力泊原発（後志管内泊村）をはじめとする他の原発でも「例外」だったはずの40年超運転が常態化する恐れがある。

核分裂で原子炉圧力容器の金属が劣化すると言われる年数の目安などが考慮され

「部品を交換し続けている原発は、40年たっても新品同様。40年という運転期限は『車検』の期限のようなものだ。大手電力でつくる電気事業連合会（電事連）の池辺和弘会長（九州電力社長）は18日の記者会見で、運転開始40年超の原発の安全性を強調した。

「原発の危機管理に詳しい広瀬弘忠東京女子大名誉教授は「部品は交換できても、原子炉や格納容器なども、原子炉や格納容器など基幹部分は変わっていない。40年たった原発を『新品同様で言うのは詭弁で、事故につながる危険性がある』と指摘する。

原発の「寿命」を原則40年とする現行の安全規制は、福島原発事故の反省から、2011年の原子炉等規制法改正で定められた。

福島第1原発1号機は1971年3月26日に運転を開始、東日本大震災で2011年3月12日に爆発した。原発政策に詳しい国際大大学院の橋川武郎教授は「40歳の誕生日の直前に爆発したという事実は重い」と強調。最長20年の延長は、あくまで例外措置と定められているだけに「40年超運



美浜原発3号機の原子炉中の起動操作を執り出すモニター画面（23日午前10時）代表撮影

申請殺到

なワクチン数に關する申請を「言い値」で受け入れるなど、十分にチェックができていなかったと認められた。申し込みが想定を超え、過大量を受理したことが休止につながった面は否めない。

政府の集計では、ワクチンの接種回数が14日に101万3061回となり、目標の1日当たり100万回を超えたことが23日に分かったばかり。首相官邸は「1日100万回接種を達成したのに、機運に水を差した」と悔やんだ。

職場接種受け付け休止

転が常態化するのは危うく、廃炉を選択する方が健全だ」と訴える。

40年超運転を巡っては、美浜3号機の他にも全国で3基が安全性審査に合格している。泊原発は通常の再稼働すら見通せない状況だが、北電は昨年、29年と31年にそれぞれ40年を迎える1、2号機の運転延長を検討すると表明した。

福井県は40年超運転を認める前提条件として、使用済み核燃料の一時保管場所の県外候補地を示すことを関連に求めていたが、選定

は難航。電事連と経済産業省は昨年12月、使用済み燃料の中間貯蔵施設がある青森県むつ市に、関連を念慮業界全体で施設を共同利用する案を提示した。むつ市は拒否しているが、福井県は再稼働に同意した。

課題が残されたまま40年超運転の再稼働が進められている現状について、むつ市の宮下宗一郎市長は「むつ市が候補地になっている事実はないし、今後も受け入れることはあり得ない」と国や電事連の対応を批判している。（佐々木彌斗）